

文字摺通信

第95号
2025年9月1日
発行:文字摺歴史文化社

『飯野町史』資料編入りは叶いませんでしたが、 こんな古文書がありました

この5月から始めた「文字摺古文書勉強会」で使うテキストで皆さんの興味を引くような古文書はないか?と昔の資料袋などを漁っていましたら、飯野町史で没になったこんな古文書がでてきました。まずは全文は下記の通り

奉差上一札之事

私儀若氣之誤ニ而北南町金沢屋内ひと葉と申す遊女に迷ひ、色々差縫れの上拵ろ御座悉く候に付、剣道御入門の因を以て一向取り縫りお願い申し上げ候間、師弟の間柄とてお手厚のお取り計らいなし下され、御蔭様を以て手軽く事相済み誠に有難き仕令せに存じ奉り候。然る上はこれ以後は別して相慎み、ひと葉事はツツと思ひ切り、御当所に於ては遊女場へ足踏み決して仕りまじく候。もし万一心得違いなど仕り候節は如何様重き御咎成し下され候共一言のお申し披きも御座なく候。これに依り一札差し上げ奉り候。以上。

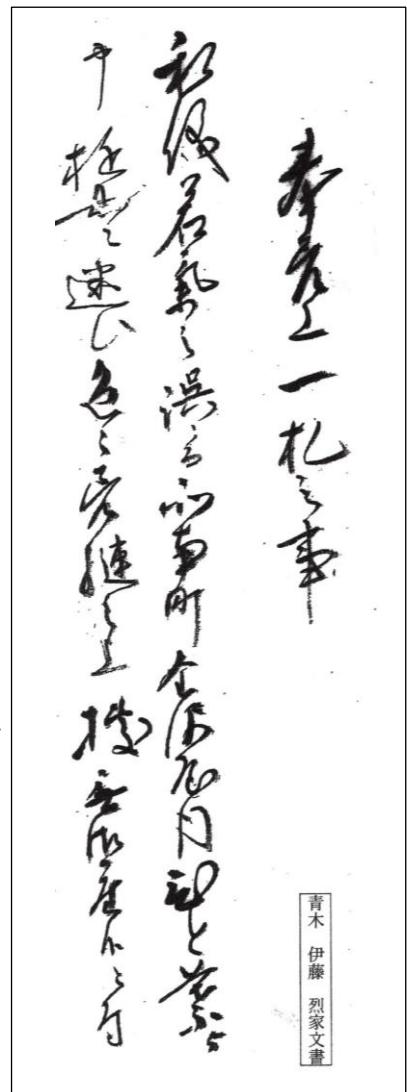
慶応元丑年七月
新家庄之進様

青木村 一札差出人 利助

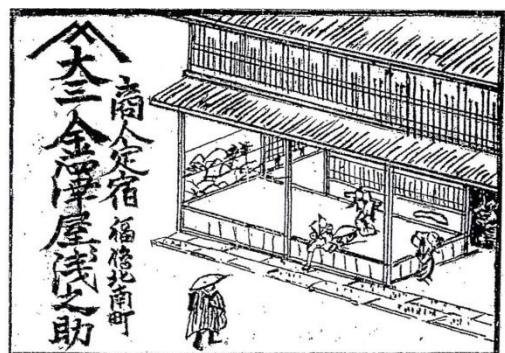
テレビドラマなどではよく見かけますが、やはり福島にもこうした遊女に惚れる若気の過ち男がいたのですね。飯野の青木村から北南町(現、福島市北町)まで歩いて通ったのですから、色恋は強いですね。それにしてもこの剣道の師匠は偉いですね。どのようにして縫れた糸をほぐしたのか、利助にひと葉のことをツツと思い切らせたのですから、素晴らしい。なお、この「ツツ」とは文書では「弗よ」と書かれていました。

この古文書でもう一つ私の気を引いたのは、遊女“ひと葉”的置かれた旅籠屋が金沢屋であること。北南町金沢屋といえば、この2年余後の慶応4年閏4月、西軍下参謀世良修蔵が仙台藩士らに拉致された旅籠屋であることです。

1枚の古文書がもう一つの歴史へと誘ってくれます。古文書勉強の楽しみがここにもあります。



青木
伊藤
列家文書



『諸国道中商人鑑』(文政10年[1827])